

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立若木小学校
1 前年度 評価結果の概要	・全職員で情報共有を常に行い、日頃の児童とのコミュニケーションを大切に、ケース会議等で対策を講じながら、児童にとって安心安全で温かい環境を創ることができた。 ・学校目標のサブテーマに「挑戦・工夫・努力」を掲げ、児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動に取り組みおおむね良好な結果となったが、今後もさらに充実を図り、児童の活動意欲を高めていきたい。 ・コロナ禍で学んだ新しい考え方で、方法を創意工夫しながら各種行事を行うことができ、地域の人材を活用することで地域の良さを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育むことができた。
2 学校教育目標	ふるさと“若木”を愛するたくましい若木っ子の育成 ～学校はみんなで創る～
3 本年度の重点目標	1 小さな学校だからできる 安心安全で 温かい環境を創る 2 自分の夢や目標をもち、すすんで挑戦し続ける力を創る 3 地域の良さを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育む

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○個別学習と協働的な学習を組み合わせ、場の工夫をすることにより、児童が一人でじっくりと考える授業と友達同士で教え合う授業の実践	○学校評価アンケートによる自己評価で、「児童一人一人がじっくりと考える時間と、友達同士で教え合った意見と交換する時間を確保している」の教師の達成率が90％以上	①「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る単元の開発を行う。 ②振り返りの仕組みの実践を行う。 ③リーディングDXスクール事業への取り組みを通して、1人1台端末とクラウド環境を効果的に活用した実践を行う。	A	・12/6にリーディングDXスクール事業に係る公開授業を2・6年で実施し、他の学年においても、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る単元づくりと振り返りの仕組みの工夫を行い、自ら学びを進めようとする児童の姿が見られた。	A	・1月に実施したアンケート調査では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る単元づくりを行った教員は90％、振り返りの仕組みの実践を行った教員は全職員、1人1台端末とクラウド環境を効果的に活用した実践を行った教員は90％となり、ICT活用教育の推進にあたることができた。	A	・意図的・計画的に個別学習や協働的な学習指導（対面と会話）を行い、成果を上げた。 ・各学年ごと、発達段階に応じた情報活用に係る教育が行われている。また、少人数であることを生かし、行き届いた教育が行われている。 ・取組の成果と児童の学力向上との関連がはっきりしない。	【わかる部会】 学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童と保護者の学校評価アンケートの心の教育に関する評価において肯定的な評価が90％以上	・平和学習週間や人権集会、ふれあい道徳などの心の教育に関する評価において肯定的な評価が90％以上 ・人権の花運動などの奉仕活動を計画的に行う	A	・平和学習週間や人権集会、ふれあい道徳など計画的に実施することができた。 ・人権の花運動などの奉仕活動については、徐々に参加しようとする意識が高まってきている。今後の取り組みに向けてさらに活動を進める必要がある。	A	・平和学習週間や人権集会、ふれあい道徳の実施や、人権の花活動や花いっぱい運動などの奉仕活動を通して、豊かな心を育む教育活動を行うことができた。児童と保護者の学校評価アンケートの心の教育に関する評価において肯定的な評価が90％以上達成することができた。	A	・平和学習や人権集会などの集会活動や道徳の学習等を通して、思いやり的心や感動する心など、豊かな心の育成に努めた。 ・人権学習が進められ、学校に対する思いやりなどもが実感される。	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員や保護者の学校評価アンケートのいじめ防止のなどの項目について肯定的な意見が90％以上	・心のアンケートを年4回実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・児童連絡会やケース会議を定期的に行い、職員で共通理解、共通実践を行い常に組織的な対応を行う。	A	・心のアンケートを年4回実施し、いじめの早期発見、早期対応を行うことができた。 ・児童連絡会とは2週間に1回、ケース会議は定期的に行い、職員で共通理解、共通実践を行い、チーム若木で組織的な対応をおこなうことができた。	A	・心のアンケートを年4回実施し、児童連絡会やケース会議を定期的に行うことで、職員で共通理解して組織的に取り組むことができた。職員や保護者の学校評価アンケートのいじめ防止などの項目について肯定的な意見が90％以上を達成することができた。	A	・アンケートやケース会議等を行い、いじめ問題について早期発見・対応を図ることができた。 ・いつの時代にもいじめは起こりうるが、早期に解決に向かってるのは、先生方の適切な対応のおかげである。	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85％以上	・学級活動や委員会活動、クラブ活動を計画的に行い、児童の自主性を育むとともに、日常的に児童を褒める機会を設ける。 ・異学年交流を行い、児童の豊かな人間関係を育む。 ・キャリアパスポートを活用し、自分について考えさせる機会を設ける。	B	・学級活動や委員会活動、クラブ活動を月に1回程度行い、児童の活動を褒める機会を設けることができた。 ・たてわりでの遊びを通して異学年の交流を行うことができた。また、週に1回のたてわり掃除も行うことでさらに異学年で協力することができるようになってきた。 ・年度初めにキャリアパスポートの記入をし、自分の目標や夢について考える全児童考える時間を設けることができた。	B	・学級活動や委員会活動、クラブ活動において児童を褒める機会を日常的に設け、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は90％以上達成した。 ・キャリアパスポートの活用をし、将来の夢や目標を持っている児童は多かつたが、具体的にビジョンを持ち「夢や目標を達成できるように努力している」について肯定的な回答をした児童は80％となった。	A	・さまざまな特別活動に積極的に取り組み、異学年間での心の交流を図った。また、その活動を通して、お互いを思いやる姿が見られた。 ・1つ自信が持てる何かがあれば、その子は伸び、そして続けられる。今後とも、児童の主体性を育てるとともに、夢や目標の達成に向けて努力する取組をお願いしたい。	【かんしゃ部会】 研究主任 特別活動担当 委員会活動担当 クラブ活動担当
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・		・		・		・	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70％以上 ②家庭と連携して「早寝、早起き、朝ご飯」を徹底し、よりよい生活リズムが定着している児童90％以上	①体育的行事や授業の工夫に加え、スポーツチャレンジの取り組みの促進を図る。 ②よりよい生活リズムの定着に向けて、食に関する指導や保健指導を児童に行い、また便り等で家庭への啓発を行う。	A	①持久走大会の在り方を再検討し、児童の実態に合わせた形で行ことができた。 ②生活リズムアンケート(7月)を実施し、児童の食や健康に関する課題について学校保健・給食委員会(7月)にて家庭と共有することができた。	A	①「運動習慣」について、1日に1時間程度身体を動かしている児童は、80.3％の結果であった。体育の学習や委員会活動、学校行事などを通して、身体を動かす楽しさを伝える働きかけをさらに継続していく必要がある。 ②機会を捉え、学級活動や給食指導を行い、便り等でも意識してもらうよう家庭への啓発を行った。「早寝、早起き、朝ご飯」について、よりよい生活リズムが定着している児童は85.0％の結果であった。児童や家庭への働きかけをさらに継続していく必要がある。	A	・体育の学習や体育的行事について指導の工夫を行い、また、家庭との連携に努め成果を上げていく。 ・運動が得意な児童もそうでない児童も楽しんで体を動かすことができるようにすることが大切だと感じる。 ・食育を継続的に行っていくことで、児童の健康面を強化していったらいい。 ・生活リズムを定着させるには保護者の協力が重要である。家庭への働きかけの継続をお願いしたい。	【きたえる部会】 体育主任 保健主事 給食主任 学校栄養職員
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・組織力で、校務分掌担当業務量の軽減化を図る。 ・勤務時間内で対応できる業務改善を図る。	B	・Google Classroomなどを活用することで情報の共有やアンケートの配信・回収などの時間を短縮することができた。時間外在校時間の上限を超えている職員は年度当初より減っている。	A	・優先順位を意識しながら業務を進めることが職員の中に定着してきたため、時間外勤務は減っている。また、部内での連携やお互いの声掛けにより、業務の平準化が図られている。次年度は担当分掌の偏りをできるだけなく組織づくりをしていく。	A	・情報の共有化や業務の優先順位を意識して、効率化を図った。 ・休日に学校で業務を行っているや聞くことがある。先生方のワークライフバランスの推進は教育の質の向上のためにも重要だと思うので、取組の継続が必要である。	管理職
	○会議のペーパレス化及び協議内容の厳選	○会議の時間・回数を5％削減の厳選	・会議を厳選し、回数を減らす。 ・事前にデータを共有し、確認しておくことで会議の時間短縮につなげる。	B	・内容の精選や協議事項のみを取り扱うことで会議時間を短縮することはできているが、資料準備が整わないことが多く、事前の確認が進んでいない。今後、改善の必要がある。	B	・会議等の回数を減らすことはできなかったが、時間については約5％の短縮はできた。子どもたちに関わることは十分に時間を取る必要があるで、話し合いの目的や協議事項を明確化・焦点化し、内容を充実させることに努める。	A	・内容精選や事前確認などを行うことで、会議の時間短縮を図ることができた。 ・児童と関わる時間の確保は重要なので、それが減っていかないようしなければならない。	管理職
●特別支援教育の充実	○支援を要する児童を含む全ての児童一人ひとりを大切にした教育活動の実施	○特別支援教育に関する研修を受けた教員が100％以上 ○児童連絡会を月1回以上行う	・ケース会議を定期的に行い、職員で共通理解をし、必要に応じて組織的に対応する。 ・職員だけでなく、福祉ともつながり、組織的に対応する。	A	・特別支援教育に関する研修を全教員対象に行うことができた。 ・児童連絡会を隔週で行ったり、必要に応じてケース会議を行ったりすることで、組織的に対応することができている。 ・福祉や保護者も交えてケース会議を行い、課題解決を図ることができた。	A	・特別支援教育に関する研修を全職員を対象に行ったり、児童連絡会を隔週で実施したことで、組織的に対応をすることができた。 ・福祉や保護者も交えて定期的にケース会議を実施し、課題解決を図ることができた。	A	・研修会や連絡会を計画的に行うとともに、保護者とのケース会議も実施し、特別支援教育の充実を図った。 ・アンケート評価が高く、十分な対応ができていると思われる。今後、保護者との連携を密にすることが必要だと感じている。	【かんしゃ部会】 特別支援教育担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○保護者や地域に信頼される学校づくり	○「学校の様子を伝えている」について肯定的な回答90％以上 ○教育効果を高める地域との連携	・定期的な学校だよりや学級通信等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・次年度の創立150周年記念事業に向け、学校と育友会、地域が連携を密にながら準備を整える。	B	・定期的な情報発信を行うことで、学校や学級で子どもたちの様子を伝えることができた。また、育友会との密な情報共有を行うことができた。今後、次年度の記念事業に向けて、より具体的な内容について話し合いを行う予定。	A	・学校からの情報発信について、保護者・職員ともに肯定的な回答は90％を超えている。 ・育友会、地域との連絡を密にしながさまざまな取組を行うことができていて、次年度の150周年記念事業に向けても、5回の準備委員会を実施することができた。	A	・学校だより、学級通信など、保護者や地域への情報発信を積極的に行った。学校行事において地域の人の参加を図ったりして、開かれた学校づくりに努めている。 ・花まるタイムなどを通して、地域との連携が図られている。 ・学校側の負担が大きくなりやう、工夫しながらの実践が重要である。	管理職
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		・	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望
・家庭、地域、関係機関などとの連携を密にしながら、児童一人一人に細やかに対応することができた。
・数多くの地域との関わりを継続し、さらに地域のために行動できる人材の育成に努めたい。
・児童が夢や目標を具体的にイメージできるような活動を設定することで、意識の向上につなげていきたい。